

# 平成 24 年 奥州市長 辰年の決意

新年明けましておめでとう  
ございます。

昨年の東日本大震災では、  
自然の猛威の前に一瞬にして  
日常を失い、たくさんの方が  
苦境に立たされ、生きる力を  
試されました。また、国民、  
行政は災害から多くのことを  
学び、人は社会とつながって  
生きていることを実感し、そ  
の絆を確かめることとなりま  
した。

これまでの皆さんのご厚情  
と粘り強いご支援に心からの  
お礼を申し上げますとともに、  
引き続きご支援をよろしくお  
願いたします。

震災前の平穏を取り戻し、  
復興するためには長い年月を  
要しますが、ひとまず、皆さ  
んと共に「一陽来復」を心か  
ら願います。

新年にあたり、ことしの市  
政運営の在り方について所信  
の一端を申し上げます。

平成 22 年度奥州市決算を見  
ると、一般会計と特別会計を  
合わせた歳出規模は 872 億  
円、借入金の総額は 1304  
億円であり、市民 1 人当たり

の借入金額は約 104 万円に  
上ります。それ以外にも水沢  
病院の累積債務、土地開発公  
社の借入金、競馬組合への融  
資金、水道事業の地方債残高  
など財政課題が山積している  
のが実情です。

0 人を超える人口減による市  
民税の減少など、好転材料の  
ない状況が続いています。  
このような中、合併時から  
の三つの大きな課題であった  
水沢病院の再生と岩手競馬の  
存続は、現在、国・県の支援  
も得ながら既に経営改善へ向  
けて動き出しております。



土地開発公社の問題は、解  
決策も無いまま先送りされて  
きましたが、抜本的な改革に  
必要な資金を、国の認可を受  
け 24 年度から導入し公社を解  
散する方針を決定しました。

新たに 100 億円を超える負  
債を一般会計で負担しますが、  
市職員一丸となり給与削減な  
ど身を削ることによって資金  
を確保し、計画的な解決を目  
指します。

これで三つの大きな財政課  
題は、解決に向けた確かな道  
筋が立つと確信しています。

30 地区の個性が響き合う奥州  
市く住み続けたいオンリーワ  
ンの『まち』を目指して

私は、社会情勢の変化に柔  
軟に対応する奥州市をつくら  
なければ、未来は存在しないと  
考えています。盛岡市に劣  
らない、奥州市が誇るべき自  
然環境や産業力を、今まで以  
上に飛躍させたいと願ってい  
ます。奥州市のそれぞれの地  
区の個性が響き合い、量より  
質の時代にふさわしいオン  
リーワンの都市として、持続  
的な発展を目指します。

現実を見据えた改革を実行  
する年が始まります。未来に  
発展する奥州市であり続ける  
ために、市民の皆様のご理解  
とご協力の下、すぐに取り組  
む行動は次の二つです。

## 財政の健全化のため「行財政 改革」

一つ目は、大胆な行財政改  
革による行財政運営の健全化  
です。既に述べた財政課題の  
ほか、本年度中の策定を目指  
している総合計画では、中期  
的財政見通しと擦り合わせて、  
政策的優先度を意識し、教育  
環境の整備と地域医療の堅持  
を図りつつも、全ての事務事  
業について見直しを行います。

また、まちづくりに向けて  
新たな投資のできる体質に改  
革する道筋を付けていきます。  
総花的な都市力の向上を目指  
すより、財政の健全化に向け  
た大胆な改革こそが急務です。

## 地方分権時代における地域自 治の確立へ「協働のまちづくり」

二つ目は「協働のまちづく  
り」。自立する地域自治の推

進です。

市民力に期待しつつ地域の  
個性を生かし、生き生きとし  
た地域づくりを進めていきま  
す。それは、地域経済の発展  
にもつながるものと考えてい  
ます。昨年 4 月に創設したま  
ちづくり交付金制度は、既に  
多くの地域が活用し始めまし  
た。24 年度には全市を挙げて  
地区センター化へと踏み出す  
計画です。協働は、行き詰ま  
りの見られる地方自治体を活  
性化し、元気にする起爆剤で  
あると考えており、私の政策  
の根幹を成すものです。

震災復興に際して注目され  
た郷土の偉人後藤新平は、帝  
都復興計画推進に当たり「人  
は近隣の生活で生存はするが、  
社会的には何の意味もない。  
人は近隣に触れて分かち合っ  
て生活し、社会に利すること  
こそが、自己の永遠の利益で  
あると自覚するのだ」と述べ  
ています。

人間は、社会的な生き物で  
す。まさに自治精神こそが私  
的利害にも合致するとし、人  
間関係やコミュニティーの質  
が人間の幸福にとって、重大

な要因になると言っています。  
ここにこそ、「幸せを実感で  
きるまち」の普遍的な考え方  
が示されており、私が提唱す  
る「協働のまちづくり」と重  
なるものです。精神的に支え  
合うことで豊かさを感じられ  
るまちづくりに、全力を挙げ  
て取り組みます。

自ら光り続ける足腰の強い  
奥州市とするために、今後 5  
年間はぐっと矯め、基礎とな  
る財政力、行政力をしっかりと  
向上させていかなければなり  
ません。市民の皆様の声を市  
政推進の力に変えて、市政の  
健全化に、元氣な奥州市の礎  
づくりに、全身全霊を傾注す  
ることをお約束します。

以上、本年の市政運営につ  
いて所信の一端を申し上げます。

市民の皆様にとって、幸多  
き一年でありますよう心から  
お祈り申し上げます。

奥州市長  
小沢昌記